2025年度
岡山大学大学院法務研究科
法学未修者入試B日程
小論文試験

[問 題]

<注意事項>

1. 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 配付した物は次のとおりです。
 - ①[問題](本書。表紙を含めて2枚)
 - ②[文章](1～8頁。表紙を含めて9枚)
 - ③解答用紙(3頁。表紙を含めて4枚)
 - ④下書用紙(1枚)
3. 解答は、解答用紙に鉛筆又はシャープペンを用いて横書きで記入してください。
4. 解答用紙は解答の有無にかかわらず、必ず全て提出してください。解答用紙の持ち帰りはかたく禁じます。
5. 試験終了後、[問題]、[文章]及び下書用紙は持ち帰ってください。

問題 別添の〔文章〕を読んで、下記の各設問に解答しなさい。

なお、別添の〔文章〕は、1700年代にヨーロッパにおいて英語で著された書物を日本語に翻訳したものの一部です。筆者は、当時の「ヨーロッパ」を、文明が高度に発展している地域として位置づけ、当時の「アフリカ」を、社会が未開な段階にある地域として位置づけています。

【設問1】

傍線(1)「すべての文明社会では、農業者は一般に農業者以外の何者でもなく、製造業者は製造業者以外の何者でもない。」(〔文章〕3頁)とは、どういうことですか。そのようになる理由もふくめて、筆者の考えを〔文章〕に即して説明しなさい。

(200字以内)
(配点80点)

【設問2】

傍線(2)「ヨーロッパの君主の暮らしぶりが勤勉で儉約な農夫のそれをどれほど凌いでいようと、その程度は、この農夫の暮らしぶりが、一万人もの裸の野蛮人の生命と自由の絶対的支配者であるアフリカの多数の王侯の暮らしぶりを凌ぐほど大きいとはかぎらない」(〔文章〕8頁)のは、なぜですか。①ヨーロッパの君主の暮らしぶり(これを、「A」とする)と農夫の暮らしぶり(これを、「B」とする)の関係、②農夫の暮らしぶり(B)とアフリカの多数の王侯の暮らしぶり(これを、「C」とする)の関係、③「AとBの関係」と「BとCの関係」の関係を明らかにしつつ、筆者の考えを〔文章〕に即して説明しなさい。

(800字以内)
(配点120点)

※出典：アダム・スミス著＝大河内一男監訳『国富論Ⅰ(改版)』(中公文庫・2020年)33頁以下(なお、出題の都合上、一部を省略・加工している)。

【出題の趣旨】

特定のテーマについて書かれた問題文を読み、その内容を的確に理解できる能力をみるとともに、提示された設問について、論理的に論述できる能力をはかるものである。

【採点の指針】

[文章] の意味を把握した上で、設問に沿った解答ができているかどうかを評価する。

設問1においても、設問2においても、「筆者の考えを [文章] に即して説明しなさい」という指示がなされていることから、そのような指示に沿った解答がなされる必要がある。また、設問2については、①②③それぞれについて明らかにしつつ、説明するよう指示がなされていることから、そのような指示に沿った解答がなされる必要がある。

設問1については、「すべての文明社会では、農業者は一般に農業者以外の何者でもなく、製造業者は製造業者以外の何者でもない。」ということの意味を明らかにした上で、そのようになる理由について説明する必要がある。一方ないし両方が書かれていない答案、筆者の考えを説明していない（自説を展開する）答案、[文章] に即して説明していない答案は、低い評価となる。

設問2については、①「ヨーロッパの君主の暮らし」と「農夫の暮らし」の関係、②「農夫の暮らし」と「アフリカの多数の王侯の暮らし」の関係、③「ヨーロッパの君主の暮らしと農夫の暮らしの関係」と「農夫の暮らしとアフリカの多数の王侯の暮らしの関係」の関係を明らかにすること、および、「ヨーロッパの君主の暮らしが勤勉で儉約な農夫のそれをどれほど凌いでいようと、その程度は、この農夫の暮らしが、一万人もの裸の野蛮人の生命と自由の絶対的支配者であるアフリカの多数の王侯の暮らしを凌ぐほど大きいとはかぎらない」ことの理由を説明することが必要である。いずれか（あるいは全部）が書かれていない答案、筆者の考えを説明していない（自説を展開する）答案、[文章] に即して説明していない答案は、低い評価となる。